

## 2018 年 医療安全管理室業務活動報告

医療安全管理室長 梅 木 まり子

### はじめに

医療安全管理室が院長直轄の部署として独立してから現在5年目を迎えた。医療の質の向上を目指す中で、組織横断的に医療の安全管理の体制確保および推進に取り組む活動等を行っている。

### 1. インシデント・アクシデント報告集計

ハインリッヒの法則により、重大事故を防ぐにはインシデント及びアクシデントを分析することが重要であるとされている。そのため当院でも報告数は年間1000件以上を目標としている。2018年の報告件数（図1）は1215件であった。毎年のことであるが、医師からの報告が少ない現状である。

報告内容（図2）については、「転倒転落」が療養上の世話の中で最も多く、全体報告の30%と一番多い報告数となっている。次いで「与薬」や「放射線関連」「カニュー

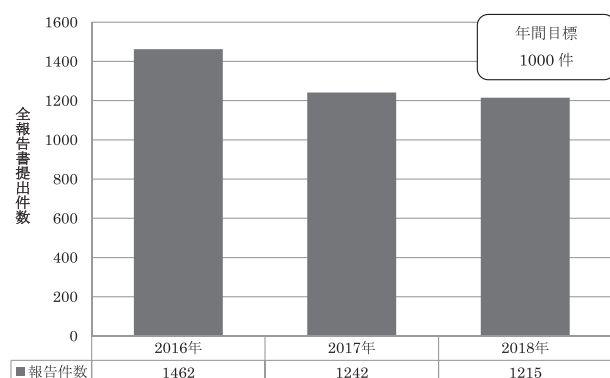


図1 報告数年次推移

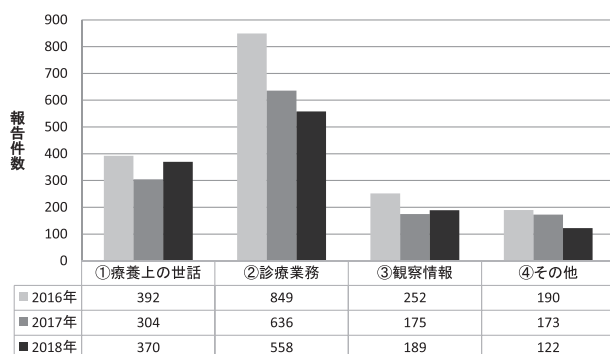


図2 報告内容の年次推移

### 2. 医療安全管理室体制

2018年4月より患者サポート室が新たに設置され、それに伴い医療安全管理室から警察OBである医療安全対策監が患者サポート室へ異動、『患者支援対策監』として警察OBとしての役割を継続しつつ患者サポート室での業務を行う事となった。医療安全管理室へは、『室長補佐』として、看護局より看護課長が新たに配属となった。

患者サポート室とは、週1回カンファレンスを実施し、情報を共有している。

### 3. 専任チーム

2014年4月、安全管理体制の構築および推進のため職種横断的な医療安全活動の推進や部門を超えた連携に考慮し、且つ、より実効性のある医療安全対策を実施するために専任者制とした。

専任者は、2017年1月から医師・看護師・薬剤師・放射線技師・臨床検査技師・栄養士・臨床工学技士（医療機器安全管理責任者）・リハビリ科の8名となり、各部署のインシデント事案の内容がより明確となり、問題点も導きやすくなった。

カンファレンスは従来通り週1回木曜日に行い、院内におけるインシデント・アクシデント及びリスクマネジメント活動の評価および改善策等を検討している。

### 4. セーフティーマネージャー活動

2007年4月より医療安全管理者の配置に加え、医療安全管理体制の組織強化と医療安全に組織的に取り組む風土づくりのため、各部門・部署ごとにセーフティーマネージャー（医療安全推進担当者）を配置している。

2013年4月から行っている『医療安全チェックリスト「注射実施手順」』については、2018年も3か月に1回のペースで実施し、セーフティーマネージャーによる評価・改善が行われた。定期的な実施により、職員の意識付けになっている。

また、麻薬に関しては、「麻薬及び向精神薬取締法」に基づき厳格な規制のある麻薬取扱いにおける意識向上と

当院の「麻薬取扱いマニュアル」および「看護実践マニュアル」を正しく知り、実行できる事を目的に2017年と同様、2018年も年4回『麻薬取扱いQ & A』を用いた知識確認を行った。『麻薬取扱いQ & A』は、麻薬の取扱いについての正誤問題（出題された問題に対して○か×で解答する）形式で行い、誤りの多い設問は何度も繰り返し実施する事で基本的な知識が修得されインシデント減少に成果をあげている。その他「麻薬取扱いフロー」や「麻薬取扱いマニュアルの閲覧方法」の周知状況を確認し麻薬事故が発生した際に正しい取扱いができるよう働きかけている。

2018年はセーフティーマネージャーの活動強化を目標にかかげ、「転倒・転落」に対しての取り組みを行った。履物が要因となって転倒した事案が多いと予測し前年度（2017年度）の院内転倒・転落のインシデント・アクシデント報告書を調査することから始めた。報告書では、明らかに転倒の要因がスリッパであると分析はできなかったが、履物指導を転倒予防に取り入れている近隣の病院もあり、当院でも対策の一つとして履物に焦点を当て転倒予防に努めていく事とした。転倒転落防止対策チームを結成し転倒割合の多い部署のセーフティーマネージャーが中心となり活動をすすめていった。骨折などの受傷リスク軽減対策の実施を目的とし、履物に対する患者・家族・看護師の認識を深め転倒・転落防止に努める事を目標とした。具体的には、効果的なパンフレット作成、入院中の履物を周知するポスター作成、履物に関して看護師の認識を高める内容で進めていった。理学療法

士から転倒予防に効果的な履物の条件を具体的に示してもらい、『転倒・転落予防パンフレット』やポスターに活用した。またパンフレットで推奨している転倒予防シューズを売店（ファミリーマート）で導入し入院中でも適切な履物が購入できる環境とした。同時に転倒の原因の要因の一つとなるスリッパを売店から撤去した。パンフレットは入院前面談の時から説明を行い、また、病棟オリエンテーションの際にも活用してもらうように配布した。3か月後には、転倒・転落のインシデント発生が減少しており取り組み前後で効果があったと評価している病棟もあった。売店での履物販売数は3か月で合計163足、1か月およそ50足余りが販売された。今後も取り組みを継続していき、定期的に評価を行っていこうと考えている。

## 5. 西胆振医療安全ネットワーク(表1)

2015年7月、室蘭市医療安全ネットワークから『西胆振医療安全ネットワーク』に拡大し、2018年も16の参加病院で活動を継続している。年3回の開催であり、2018年は、院外講師を招き、ImSAFER研修を土曜日に開催した。また、医療界やビジネス界などでも多くの講演会を実施しているWマコトを講師に招き「最強医療コミュニケーション なんてやねん力」講演会を開催した。また、テーマ「近隣病院における改善事案報告」としてネットワーク参加病院が輪番制で事案報告をし、意見交換の場とした。

表1 西胆振医療安全ネットワークの記録

回	開催日	テーマ	開催病院
第1回	1月12日	暴言暴力・クレーム対応	製鉄記念室蘭病院
第2回	4月14日	ImSAFER研修 in 室蘭	市立室蘭総合病院
第3回	5月18日	Wマコト講演会	市立室蘭総合病院
第4回	11月16日	近隣病院における改善事案報告 洞爺協会病院・聖ヶ丘病院・伊達赤十字病院	日鋼記念病院

表2 医療安全研修会の記録

回	開催日	テーマ	演者
第1回	5月18日	最強医療コミュニケーション なんてやねん力	WMcommons Wマコト
第2回	7月3日	防犯対策 護身術・刺股研修	患者支援対策監 荻谷 一道
第3回	12月18日	説明と記録の重要性	SOMPO リスクマネジメント株式会社 主任コンサルタント 北本 渉



写真1・2 第1回 医療安全研修会の様子

## 6. 院内研修会（表2、写真1・2）

全職員対象の研修会であること、出席者数の増加を目指すことを考え、テーマや研修内容の工夫を心がけている。

2018年は、全職員に共通した内容として、

- 1) 西胆振医療安全ネットワーク特別講演会として開催した。西胆振管内ネットワーク参加病院からも80名が参加した。医療現場におけるコミュニケーションというテーマでお笑い芸人Wマコトを招き、お笑いを交えて楽しく医療安全に重要なコミュニケーション力を学ぶ機会となった。
- 2) 12月にはSOMPOリスクマネジメント株式会社から講師を招き、医療機関の説明義務、診療録・看護記録の重要性について事例解説をもとに講演いただいた。法定講習会で年2回のうちの1回としたため、医師8名を含む177名が当日参加した。当院の会場の収容人数にも限りがあるが、今後の研修会についても職員が興味を持つテーマを検討していきたい。

## 7. 医療安全対策地域連携加算に伴う連携病院訪問

2018年4月から、医療安全対策加算において医療安全対策地域連携加算が新設された。当院は地域連携加算1を申請した。施設基準として、医療安全対策加算1及び加算2に係る届出を行っている保険医療機関との連携が必要となり、少なくとも年1回程度の訪問評価を行う事が定められている。今年度の当院との連携施設は「加算1：日鋼記念病院」「加算2：聖ヶ丘病院」であり、10/29に聖ヶ丘病院へ訪問、12/5には日鋼記念病院から当院へ12/12には当院から日鋼記念病院へ相互訪問と評価を行った。相互訪問により各病院の医療安全に対する考え方や取り組み方を学べる機会となり、刺激となるだけでなく、情報共有の場としても有意義であると感じた。日鋼記念病院からの指摘事項については今後の課題としていく。